

2018年度 第5回 静岡市多文化共生協議会 会議録

1 日 時 2018年5月9日(水) 19:00～20:30

2 場 所 静岡市市役所新館 17階 171会議室

3 出席者 多文化共生協議会委員12名
小林 タバサ、全 高香、スリヤ佐野 ヨハンナ雪恵、高畑 幸、
ニアズ アハメド、宋 亜茹、福井 ユミ、ホリウチ アリッセ イズミ、
楊 移苗、吉野 恵津子、李 栄元、レ ティ マイ ゴック

事務局、静岡市国際交流協会

4 傍聴者

5 次第 (1)開会
(2)協議内容
議題: 提言並びに多文化共生推進計画見直しに向けたテーマの選定
(3)その他
(4)閉会

6 意見交換内容

○ホリウチ会長

本日の議題は、提言並びに多文化共生推進計画見直しに向けたテーマの選定です。初めに事務局の方から説明をお願いしたいので、よろしくお願い致します。

○中川主任主事

今回は資料1を使って説明させていただきます。最初に前回までの振り返りをさせていただきます。今年の1月に第4回多文化共生懇話会を実施いたしました。その時には第2回目、3回目に出た意見をカテゴリー毎に分類して、一人4つずつ提言した意見を出していただきました。今回資料1の左側に、第4回の懇話会で意見が上がったものを抜き出して、事務局で大きく5つのカテゴリーに分けさせていただきました。1.防災、2.交流、3.教育、4.学生・留学生に関する事、5.その他、と5つに分類しております。そして今回ですが、右の方に前回の協議会意見をもとに事務局が作成した提言素案として、それぞれ前回までに出た必要だと思われる事柄を概ね4つぐらいに集約されていると思うので、提言1～5として分類させていただきます。それぞれの項目につきましては、課長補佐の望月から説明をさせていただきたいと思っております。

○望月補佐

皆さんから前回の懇話会で提言についてお話を頂いたものをまとめたものが、この提言1～4ですが、その4つの提言でまず良いのかというのを協議頂ければと思います。こちらはみなさんからいただいた意見を集約したものではありませんが、たまたまではありますけれども提言1の防災につきましては、県の防災計画が平成30年3月に改定になりまして、避難所のマニュアル等が改定して今後協議が入ってきます。9月には県と静岡市で総合の防災訓練を行なう予定です。提言2になりますが、地域との交流で国際交流協会の経営計画で機能強化を図っていますので、活用方法についてご助言いただければと思います。提言3の教育については、今年度GETプログラムの募集を教育委員会でを行っています。小学校の外国語の授業の中で教員を助ける形で入ることになります。こうした取り組みが教育委員会で行われてくるということなので、特にいいのかなと思います。提言4につきましては、静岡市の創生SDG's推進会議の分科会で重要ということであげさせていただいて、今後協議が始まっていきますので、その中でもお話ができるのかなと思っておりますので、よろしくお願い致します。

○ホリウチ会長

まずこの4つのテーマの確認をみなさんで行いたいと思います。

○高畑委員

事務局の説明が難しくよくわからない。

○ホリウチ会長

今まで出た提言を右にまとめてあるということです。特に交流のところを提言2で地域と交流をまとめたところが大きなポイントとなります。まずは4つの提言の順番ですが、これでよいでしょうか。

○全委員

質問ですが、提言1の防災に関しては県と今後推進していくという話があったが、私たちの方では具体的な提言をしなくてもいいのかがどうか、よくわからないのですが。

○望月補佐

たまたまですが、背景として防災については県の防災計画があったので、ちょうど良い機会だと思ってお話をさせていただいた。

○全委員

提言は4つありますが、個数は決まっているのですか。

○ホリウチ会長

それは無いと思います。

○望月補佐

一回目の時にお話ししましたが、3 つから 4 つの提言をいただいて、その中で議論していただくのが良いのかなと考えています。ただ、新しい事が出てきたら、提言として出すのか、中間見直しとして出すのか、それはご意見いただいた中で判断させてください。

○ホリウチ会長

気になっているのが、学生・留学生のところですが、学生とは留学生じゃない学生のことで、留学生だけにした方がいいのではないのでしょうか。

○福井副会長

でも在住外国人の子は普通の学生ですよね。留学生ではないですよね。だから学生になるのかなと思いましたが。国籍は外国だが、小学校から日本の学校に通っている子供もいる。

○吉野委員

学生というと、大学生を連想する。高校生までは児童・生徒。だからそういう子ども達が入ってないのかな、と思った。

○高畑委員

子どもだったらむしろ、提言3 の教育に入るのでは。学生と留学生をあえて分けた理由はありますか。

○望月補佐

今、高畑委員からお話があったように、基本的にはみなさんからご意見いただいた時には、提言4 の留学生・学生については、留学生と大学生について分けている。ご意見の中で、教育の分野の中では、学校の中でのいじめ等の話があったので、教育の方に入れさせていただいてもいいのかなと考えておりますが、それは最終的に考えていけばよいかと思っております。ですので、区切りなくお話いただければよろしいかなと思っております。学生とは小学生から大学生まですべてに對して考えていただければと思います。

○高畑委員

かえて混乱するので、提言4 は留学生に絞った方がいいのでは。日本で育った外国ルーツの子どもは 3 の教育に入ると言う理解で。静岡市では留学生が増えているから、特に提言を出す必要があるかなと思います。

○ホリウチ会長

では提言4 は学生を取って、留学生とした方がよいですね。
ではまず提言1 について、みなさんから意見をお願い致します。

○高畑委員

今書いてある具体的な取り組み例は今までやってなかったことなのか、今までもやっていたことなのか分からない。

○中川主任主事

取り組み例は第4回の懇話会でいただいた意見を参考に具体的な例としてあげました。実際にやっているかどうかの確認までは取っていないと思います。

○ニアズ委員

これをどうやるかという説明を増やしていくのか、そのまま終わりにするのか。ここに、外国人も地域づくりに参加するとありますが、どうやってするのか。

○中川主任主事

こちらの具体的な取り組みの例を参考にしながらでもいいですし、今回の目的としては提言の中の具体的な取り組みの部分を皆さんにご意見いただきたいと思っています。

○高畑委員

他にもこういうのがあるよ、っていうのを出せばいいんですね。

○ホリウチ会長

具体的な取り組みの例というのは、例えば今まで SAME の方で外国人のための防災セミナーを実施しているのですが、そういった例を出すとかですか。

○中川主任主事

そうです。

○高畑委員

現在は防災訓練に留学生はかなり参加しているんですか。

○ニアズ委員

日本語学校ではやっています。それぞれの学校ではやっていますが、それ以外のことで私が思いつくのは、3月11日には清水の方で防災訓練がありますが、それには外国人は参加していません。

○ホリウチ会長

今日ここに留学生がいますが、防災訓練には参加していますか。

○ゴック委員

学校の防災訓練には参加しています。

○小林委員

私は留学生ではないですが、自治会がやっている防災訓練には、若い人を取り込むこと自体が難しいと思っているので、留学生もとなると、まず情報をキャッチできているかという、そもそもバイトに行けないとか、スケジュール的に難しい。

○ホリウチ会長

大学ではやっていますか。

○小林委員

もしやっても、その時間に授業があると出られないです。

○ニアズ委員

全体的にはやっていない。防災訓練をやっている時間に、時間があれば参加するという感じ。

○ホリウチ会長

大学にも寄ると思いますが、防災訓練の日にちが決まっていて、その日に先生と学生と一緒に移動するという形になっている。

○高畑委員

県大では強制的な防災訓練は一応あるが、学生には内緒にしておいて、教員だけ知っている。授業中にサイレンが鳴って、そのまま訓練をしているが、その時間帯に授業を取ってなければ、大学自体にいない。

○宋委員

静大もほぼ一緒です。授業の10分くらい前に授業に行くと、先生から今日訓練があるから、逃げろと言うから付いて来て、と言っていた。

○高畑委員

学校に所属している人は防災訓練をするが、それ以外の人が地域の防災訓練に行くかという、なかなか行かないのではないかと。

○ニアズ委員

訓練だけでなく、祭り騒ぎだったら来るかもしれない。

○ゴック委員

地域の防災訓練はどのようにみんなに通知しますか。私達は今まで聞いたことがない。

○ニアズ委員

それは組合としてやっています。自治会で回覧板とか。組合に入っているか入っていないかによって全然情報が違う。

○ホリウチ会長

自治会に入っていれば、回覧板が回ってくるというかたちだと思えます。

○全委員

提言のひとつとして留学生に周知する方法は、例えば学校では個別にやっているかもしれないが、自治会ではこの日にあるよ、という周知をお願いするのはどうか。

○ニアズ委員

それは学校に寄ります。八幡の方では、日本語学校とかことば学校には情報が来る。森下公園でやる時は、自治会の訓練に学生を呼んで一緒にやる。前は別々にやっていたが、今は一緒にやっている。学校の努力と、市から情報の周知をした方が良い。

○福井副会長

あと、9月1日に携帯が突然鳴るのも、何なのかよくわからない。漢字がたくさん書いてあるメールが来るだけ。

○ニアズ委員

漢字のメールだけでなく、少し英語を入れた方がいいと思う。新しく来た人は携帯を持っているが、何がきたのかわからない。

○ホリウチ会長

防災を留学生に知らせると言う点では、提言4の「留学生・研修生が、安心・安全に暮らすための地域づくり」に入るのではないかと。情報を得るといふ部分で。

○ニアズ委員

地域づくりの中に入る。どうやって暮らすか、ということになる。

○ホリウチ会長

防災訓練の情報、ということをもう少しふさわしい日本語があればいいかなと思う。

○福井副会長

防災訓練が始まる時に、広報の放送が流れるが、それを留学生がどのくらい聞いていて、理解しているのかが、ひとつの問題ですね。

○ホリウチ会長

でもとても聞きづらいですね。

○高畑委員

日本人が聞いてもよくわからない。町内の放送みたいなものですね。放送は聞きづらい。

○ニアズ委員

それも、どこにいるかによって、聞こえない。問題はどうやって参加させるか。

○李委員

留学生の方々が地域に住んでいると思うが、どの辺りに大勢住んでいるとかの地理的なものや、住んでいる形態、マンションなのかアパートなのか、そういう統計があるとアプローチの仕方がわかるのではないか。そんなに不便な場所には住んでいないですね。

○福井副会長

ただ、基本的に空いている時間はバイトとかで埋めていて、スケジュール的に知っていても参加できない人も多いのではないか。そういうところでどうやってアプローチをして、そこで何かができるものなのかどうか。

○高畑委員

提言4 と関わらと思うが、留学生の生活の実態を知る必要があるし、バイトしている人が多いので、むしろ留学生を雇っている会社と連携して、会社単位で防災訓練に協力をしてもらうとか、色々な情報を流すようにしてもらおうとか、そういう方法もあるのでは。

○ニアズ委員

学校としては、何かあると困るので、担任の先生は学生と LINE を交換している。ことば学校では複数台の携帯を管理していて、何か起きた時にすぐ連絡が取れるようにしてある。そういう面で他の学校も連絡手段を確保しておくのがいい。LINE が一番いいと思う。地震の時に開発したものですから。

○ホリウチ会長

ひとつの提言としては、留学生の生活や住まいの実態調査の実施をするとか、そこをしっかりと把握していないと、どのように取り組みでいくかが一つの課題になると思うのですが。

○高畑委員

今静岡市で留学生が増えているというのは、静大や県大にいる留学生とは別の日本語学校とかで増えているということ。

○ニアズ委員

そうだと思います。静岡で勉強していた学生がそのまま残って、また新しい学生が入ってくる。プロスペラという専門学校には今300人の生徒がいる。去年、一昨年は120人くらいだった。東京寄りということもあり、広島など他の地域から学生がたくさん来ている。自動車整備などの専門学校に入ったりもしている。以前は日本語学校を卒業したら、日本から出ていたが、今は残っているのが増えてきている。それをうまく就職につなげてあげると、静岡に残ると思う。彼らは2~4年も同じところに住んでいたら、他のところに行きたくなくなる。

○スリヤ佐野委員

質問なのですが、提言4で学生をなくして留学生だけになりましたが、留学生ではないけれど定住者でもない人達、例えば研修生とかはどこに分類されるのか。仕事をしながら勉強している人たちも多いが、そういう人達は留学生の枠に入らないのであれば、その他の人のグループもここに名前を入れた方がいいのではないか。一番留学生が多いグループかもしれないですが、その次に多いのはどのグループなのか。

○ニアズ委員

この研修生は、先生の下に付く人のことではないか。静大のABN(アジアビジネスネットワーク)というのがあり、2年間の研修に来ている。技能実習生は別のグループになると思う。

○高畑委員

研修生の数は少ない。それより技能実習生の方が多いが、技能実習生がここでは忘れられている。留学生が2~4年日本に滞在するのに対し、技能実習生は3~5年なのであまり変わらない。

○スリヤ佐野委員

彼らの生活や防災がどうなっているのかも一つの課題なのではないか。職場、学校の中での防災を調べるといったことが出たが、生活しているスペースでどうするか。地域とのつながりはあまりないのかもしれないが、地域で見守る意識が持てるようにしたいと思う。

○吉野委員

技能実習生は会社で防災訓練をしているという話は聞いている。生活も会社が見ているが、悪い会社では狭い部屋に大勢押し込められているとか、良い会社では全然違うとか。

○スリヤ佐野委員

そういうところまで調べて欲しい。日本全国、不法労働とか本人の意思ではなく働かされている人もいる。静岡市にも問題があるかもしれないので、そういうのを見つけない。そして正しい環境で安全に生活できるようにして欲しい。でもそこも我々が議論する範疇なのか。

○福井副会長

そこを突っ込むのはとても難しい。できないと思った方がいい。労働局に働きかけても動いてくれないから。どう手を出していいのかわからない。今は目の前の困っていることを助けてあげる事しかできない。

○高畑委員

留学生と技能実習生の大きな違いは、技能実習生はその期間が終わったら一旦帰らないといけない。それに対して留学生は勉強する期間が終わっても就職したらその後もあるので、そういう違いはある。その後の定住を考えると留学生の方が、そのポテンシャルがあるということですね。

○楊委員

防災の提言ですが、地震が確かに日本は多い。中国ではほとんどない。日本に来た時、地震の事は頭になかった。留学生が日本に来たら、まず地震の怖さを伝えるのはどうか。防災センターに行ったら体験するのいいと思う。実際に怖さを知る事で、自分を守ろうとするのではないかな。市としてはそういうことを促すことくらいしかできないのではないかな。

○高畑委員

体験したことがないと怖さがわからないから、地震がない国から来たらわからないですね。

○楊委員

東北の大地震のことは知っていても、実際静岡の地震は弱いから、本当の怖さがわからない。現場に行かないと怖さは分からないけれど、防災センターに行けば体験できる。

○福井副会長

でもそこに連れて行くのがすごく大変。県、市、国際交流協会が長年いろんなイベントを企画しているが、なかなか人が集まらない。

○楊委員

私は家族が来た時に一緒に行っている。中国では体験できないことなので、地震の怖さを知ってもらわないと。

○福井副会長

意識の高い人は自主的に行くかもしれないが、行かない人の方が多い。例えば、転入手続をしに来た時に、その後防災センターに連れて行くとかしないと、行かないと思う。経験がない人は頭ではわかっているけど、行動が伴わない。育った環境の中に地震があれば、少しはわかるが、地震を知らない外国人が地震に遭うと、びっくりしてまず外に出る、車に乗るなどと言われても、車に乗って逃げます。そこは何度防災訓練に出ている人でも、揺れたら外に逃げる。日本の家屋は今とても頑丈だから、家にいるのが安全だよと何度説明しても、物が倒れたら怖い、外に出る、というのが本能になっている。そこを理解してもらうのはとても難しい。

○高畑委員

外国人に防災訓練に来てほしい、というのはおそらく10年前にも言っていた。防災訓練への参加を促すのは形式的になってきているが、新しい人がどんどん来ていることを考えると、防災訓練への参加は継続的に言い続けていかなければならない課題。留学生なら、学校やバイト先、欲を言えばもっと地域にも関わってほしい。でも実際はバイトで忙しいから無理かな。

○ニアズ委員

地震体験車がイベントに出ていたりするから、それを利用していいと思う。

○スリヤ佐野委員

防災センターに行った時や防災訓練に参加すると、防災食や防災に関するプレゼントをもらえるというのはどうか。

○福井副会長

実は行くともらえるが、外国人は賞状とか参加したことがあるという名前入りの証明書があると、自慢できるものになるので、そういう訓練を体験した人というので作ったら、もう少し参加してくれるのではないかな。

○ニアズ委員

履歴書にも、そういうもの(防災訓練など)に参加したことが、あるかないかを書けるような欄があるとよい。そうすると、自分のメリットが増えていくし、履歴書を見た人にもわかってもらえる。

○高畑委員

かっこいい参加賞が必要。

○福井副会長

ラミネート加工してあって、財布にも入れられるものだといいと思う。そういうのは南米の人はすごく好き。学校の教育をあまり受けていない人ほど、証明書を持っていると自慢になる。

○高畑委員

例えば、3回防災訓練に参加したら、あなたは防災について教えることができますよ、という資格がもらえる、とか。

○ニアズ委員

日本人にはそういう資格がある。

○高畑委員

外国人で防災訓練を何回も受けて、自分も防災について他の外国人に教えられるぐらい十分な知識がありますよ、という証明書があるとよい。

○福井副会長

そのレベルになると、多分いろんなところと連携が取れるようになるのかなと思う。

○高畑委員

何かいいネーミングがあれば。外国人防災アドバイザーとか、防災インストラクターとか。

○ニアズ委員

今まで他でやっていないから、静岡市が最初に取り組むと、全国のいい例となるかもしれない。

○高畑委員

やはりやる気が出て、魅力的なものがないと。

○福井副会長

食べ物とかは意外と人を惹きつけられなかった、という経験がある。多少人が集まった企画は、防災訓練をした後、みんなで動物園に行こうというもの。その時はバス3台分の人が集まった。

○ニアズ委員

何かプラスαがないとね…

○高畑委員

食べ物とか自分で買える物よりも、ちょっとしたサーティフィケートがある方が惹きつけるということですか。

○福井副会長

そうだと思います。

○高畑委員

それは留学生でもいいし、日本に滞在している大人の人でもいい、ということですよね。

○吉野委員

私の地域の防災訓練には、外国人も参加してくれる。小中学生は防災訓練に参加したという証明の印をもらうが、そういうように外国人の方にもポイントを集めたら、アドバイザーになれるというようにくみは良いと思う。やる気になると思う。

○福井副会長

もしそういう資格を取ったら、みんなSNSに載せたりして、いろんな人に拡散し、参加したいと思う人が増えていくのではないかな。

○ホリウチ会長

市から賞状がもらえるとか、ちょっとしたインセンティブがあるとよい。

○宋委員

防災訓練の必要性についてですが、防災というと地震しか思いつかない。日本での短期滞在の間に、地震ばかりでなく火事や他のテーマを出したらどうかなど。

もうひとつは、防災訓練の内容ですが、先生とグラウンドに逃げて、ちょっと先生が話をし、また教室に戻る。防災としての意味が全くない。

○福井副会長

そこは地域の防災訓練との大きな違い。地域の防災訓練ではご飯を炊いたり、実際に火事が起きたらどこからホースを持って来て、どうやって水をかけるのかとかもやるし、各地域の防災倉庫に食べ物が入っていたりとか、そういうのも全部教えてもらえる。困ったときにはここにすれば、このぐらいの食べ物があるんだなどというのは日本人や参加した方は知っている。学校でやるものは、その時どうするか、ということだけで、落ち着いたらそれぞれ帰宅してくださいと言うだけ。

○ゴック委員

私も参加したけれど、遊びみたいにみんなしゃべっていた。

○福井副会長

伊勢丹などでやっている訓練は各フロアに係がいて、お客さんが残っていないか確認するというのを、学校では先生がやっているんだと思うけど、生徒はそこまで見ていない。私の勤務先では定期的に火事、地震、津波に対応した違う訓練をしている。そういう動きもしていく必要があるのかもしれない。

○ホリウチ会長

ありがとうございます。それでは、提言2の地域との交流に関して、皆さんから具体的な取り組みについて何かありますでしょうか。

○スリヤ佐野委員

以前にもお話ししましたが、具体的に清水市民クリスマスにおいて、国際交流のイベントをまた企画していますので、市の方でも利用していただきたい。今年は12月4日(火)に清水市民クリスマスを開催。スウェーデンのレーナ・マリアがゲストです。来年にはフィンランド日本国交100周年のイベントを清水市民クリスマスで行なう予定なので、活用していただきたい。

○ゴック委員

異文化理解講座とかを開けばどうか。多分やっているグループはあるが、もっと大きな規模でやれば多くの人が集まって、もっと効果的なものになるのではないかな。

○福井副会長

アースカレッジのようなイベントもあるし、SAMEもいろんな国の紹介等の企画をしているが、実際に来てくれる人を集めるのが大変。やりたいという人はいっぱいいる。そこをどう解決して、広げていくのが難しいと思う。

○高畑委員

普段は異文化理解とか全く関心のない人も参加できるような何かがあればいい。

○福井副会長

インターナショナルフェスタとかをやっても、いまいちですね。

○石黒さん

やる、やらないかより、やる時にどうやって告知をするか。異文化理解講座をどういうテーマでやるかとか、皆さんの方にアイデアを頂いた方がいいのかなと思っている。今まで紹介されていないものやっても、国際交流とかマイナーなものに興味のある人は来るが、一般の方を呼び込むのが難しい。テーマや対象を決めるのにみなさんのご意見があれば、ぜひ参考にさせていただきたい。

○吉野委員

先日アジムさんの講座の時、ものすごい人が集まっていて驚いた。さすが協会だなと思った。UNESCO開催のものでも集客率が悪くて、原因としてはSAMEに広告を載せてもらっていなかったからだどわかった。今年は載せてもらおうと思っている。その他に、こういう人がこういうお話ができますというリストを協会か多文化共生課で作ってくれるとありがたい。

○小長谷局長

そういうリストがないわけではない。協会の方に問い合わせがあって、こういう講座が開きたいというお話があれば、うちの方からご紹介させていただく。リストはあるが、今はそのリストを公表するのがなかなか難しいので、完全にオープンにはしていない。しかし、お問い合わせをいただければ、今おっしゃっていることには対応させていただきます。むしろ、どんどんそういう話をいただければ、石黒が言ったように、我々としてもできるだけそのような機会を作りたい。提言の中にもいろんな交流会などあるように、ぜひみなさんからいろんなアイデアをいただいて、協会や市と一緒にやってそういうのが開ければと思っているので、ぜひたくさんアイデアをいただきたいと思っている。

○福井副会長

多文化共生を通して、地域の公民館でお国紹介などをさせてもらったことがある。企画はいろんな所であると思うけれど、やはり告知が問題。講師料を男女参画のところから払っていただいて、話に行くと言うのに何度か参加したことがある。それは場所が企画して、市に書類を通してという形だと思っんですけど。

○望月補佐

国際理解講座については、年間かなりの数をやっている。対象もかなり幅広くやっていて、CIRについては年間の1/3ぐらいはこども園・保育園の方に行っている。それだけ毎回希望があるので、去年は170回くらい行っている。専門学校や大学の方にも異文化理解講座という形で出前講座をしている。生涯学習施設も年間6回は必ず行く。教育関係、子育て支援センターにも行ってはいるが、なかなか人が来ない。企画をして要望があっても、実際開催すると5名、10名ぐらいしか来ない。前回いただいている、関係のないところでやったらどうかというのもまだ試していないので、そういう試みもおもしろいかなと思っている。

○全委員

必ず人が集まるところと言えば、小学校のフェスタ。そこには地域の町内会とかも出ているので、そういうところにこちらの方から、何個か毎年どこか設定していただいてコミットしていただくことは可能かどうか。集まっているところにこちらからくっついてしまうのはどうか。

○小長谷局長

小学校関係だと、教育委員会やCIRとかが中心になってやってくださっていて、国際交流協会は方向けのようなイメージになる。必ずきちっとした区分けがあるわけではないが。

○全委員

町内会の中にコミットして、町内会として学校に入ると、学校には人がたくさん来るので、地域の人と子供達とその地域のお年寄りなんかも来ている。

○ホリウチ会長

たまに自治会のイベントを学校のグラウンドを使ってやっているが、その話を今しているんだと思います。

○全委員

いいえ、学校は学校で主催しているものあります。

○ホリウチ会長

うちの自治会ではたまに学校のグラウンドを使ってイベントをしたりしている。運動会、夏祭りとか。学校が主催しているのではなく、自治会が主催している。

○全委員

小学校は学校が、中学校は自治会がやっている。

○望月補佐

学校の関係は、学校の機関ではなくPTAとか学校を支援していく団体がやる形になる。

○スリヤ佐野委員

辻小学校では、コミュニティスクールというのをやっていて、地域と学校とPTAが一緒になって、国際交流の話をしませんかという話があったことがある。地域からそういうお話がきて、学校でお話をしたとか、国際交流の授業を3、4回担当させてもらったことがある。

○ホリウチ会長

人がいるところに出張するのはいい機会だと思います。

○高畑委員

別の入口として、ショッピングモールのイベントスペースとか、マークイズの1階のイベントスペースでまとまったイベントをやると、普段は興味のない人もたまたま通りかかってくると思う。お金はかかると思うが。

○ニアズ委員

お金はかからない。逆にそこのお客さんを増やすことができるのなら、全然問題ない。去年東静岡でアジアンフェスティバルをやった時、マークイズと組んでやった。

○ホリウチ会長

今年の3月にドリームプラザで行ったイベントはいかがでしたか。

○石黒さん

商業施設の中、屋根のあるところで、天気に対応できるようにやりましたが、ドリームプラザに来るのが目的だった人が参加してくれたというメリットはあったが、デメリットとしてはその日マラソン大会があり、大きな交通規制があったので、清水の方は割と来られたが、駿河区、葵区の方からは交通規制で行けなかったという声があった。ショッピングセンターでやると、私たちのフェスティバルを目的ではなく来てくれた方もいらっしやったので、そういう意味ではすごく良かったと思う。今年度は11月18日(日)に、雨が降らなければ青葉シンボルロードで開催します。その中で自分の国を紹介したいとか、運営に関わってみたい方がいらっしやったら、ぜひよろしくお願ひします。

○ホリウチ会長

ありがとうございます。それでは、提言3、教育に関する具体的な取り組みに関して、みなさんから意見ありますでしょうか。

○スリヤ佐野委員

取り組んでほしい物でもいいですか。インターナショナルスクールが静岡市にはないので、必要じゃないかなと思います。今まで学んだ言語を忘れないために、また外国人の子どもが行けるような学校。今は日本の学校というオプションしかないで、それを作る必要があるのではないかなと思うから、入れたいと思う。

○ニアズ委員

莫大な費用がかかる。

○スリヤ佐野委員

もしそういうのを作ろうとしている人がいるなら支援する。

○ニアズ委員

前から声はあるが・・・

○小林委員

肌の色、言語、その他いろいろな違いを共有するというのが重要だと思っでいて、清水港に豪華客船が入港することがメディアでも大々的に報道されていて、英会話を練習しに親子連れで行っているのはいいが、白人の方にしか話しかけない。しかも何の文脈もなく「ハロー」と語りかける。外国人の中にも「こんにちは」と言っでほしい人もいるし、頭ごなしに英語で話しかける典型的な人がいて、アジア人でもアメリカから来ている人もいる、オーストラリアから来ている人もいる。人種に対しての日本人の教育が足りないと思っでいる。黒人の人だと本当に話しかけない人とかいて、すごく悲しい気持ちになる。教育の①の3にもあるが、ALTとかではなくても、地域に在住している人、例えばインドネシアの人達とも十分英語で会話ができる。清水港に関連して、中国船が

く ぜんぜん にほんじん けんぶつ こ ちゅうごく きゃくほんとう こうりゅう たの
来ると全然日本人も見物に来ない。中国のお客さんたちも本当に交流してとても楽しいのに、そう
いうところが残念だと思ふ。そしてそこを変えられるのは教育だと思っているの、徹底して欲しいと
思ふ思ふ。

○ホリウチ会長

ありがとうございます。提言4、留学生についてはいかがでしょうか。

○高畑委員

さっきいつか留学生に関して議論をしたので、例えば住まいとか生活の実態調査とかをしてほ
しい。留学生が増えているのなら、どういう人が増えていて、どういう生活をしているのかを知りたい。

○ホリウチ会長

事務局から何かありますでしょうか。

○望月補佐

がいく かなら い さい こと さいこうりゅうきょうかい
外国の方が静岡市に来た時に、戸籍住民課というところに必ず行くが、その際に国際交流協会
の事や、自治会、避難所の案内を渡しているが、その内容が伝わっているのかどうか。わかっている
のか、興味がないから来ないのか。実際に国際交流協会に来る人もわずかだし、知らないと言う
方も中にはいる。そこをどのようにしゅうち ぼうさい かん じゅうけん ひなんじょ ひなん
周知しているのか。防災に関しては、静岡県は避難所に避難し
てもらふことになっている。留学生も一時的には学校に避難することになっているが、食料が十分あ
るわけではないので、最終的には避難所に行くことになるのだが、自分がどこの避難所に行くのか、
がくせい りかい し
学生も理解しているのか知りたい。

○ニアズ委員

そういう情報はない。戸籍住民課ではごみ袋と案内ガイドをもらふだけ。時間がかかるから、他の
説明はないです、今のところ。

○福井副会長

案内は必ず付いてくるものではない。手続きをしている時に時間があったり、興味がある人は
案内を持って行く。でも私の中では一緒にセットでもらふということはあまりない。

○宋委員

自分で案内をもらって見ても、行かない。でも近い友達が声をかけてくれたら絶対行く。留学生の
中に班長のような人を作つて、友達みんなに声をかけてもらふ。そうしたらみんな行くのかなと思ふ。

○福井副会長

これは南米特有かもしれないが、地図の見方がわかりません。地図を見ながら歩くという習慣がな

いから、たどり着けない。外国人がよく行く場所(コンビニなど)を目印にしてあげるといい。

○楊委員

最近手続きをしたが、資料は一切なし。しかも急いで手続きをするだけで説明も全くなかった。そういう時に中国人の職員が対応したら、アドバイスも聞きやすい。防災センターの話もすれば、多分行くと思う。最初来たばかりの時は、言語がなかなか聞き取れない。日本語だけなら無理だと思おう。

○高畑委員

無理やり3分くらいの動画を見せるとか。色々な言語で、自治会とか防災についての動画を作っておいて、外国人が最初にきて登録したら、待ち時間に必ず見てもらうという風にすればよい。書類をたくさんもらうから、文字で来られても圧迫感があり疲れてしまう。

○スリヤ佐野委員

待ち時間にロビーで見てもらえれば、ちょうどいい。いろんな国の字幕を入れて。

○福井副会長

ベーシックがいくつかあれば。英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語など。

○ホリウチ会長

その他について気になるところはありますか。

では、有意義な意見交換をありがとうございました。次回は7月18日(水)に開催します。